

「山形県ベストアグリ賞」を受賞

わだい④

12月11日、株式会社ムラサキ農産（代表取締役 八鍬良則さん）が「山形県ベストアグリ賞」を受賞しました。これは、地域の環境を生かし、優れた経営と農村生活を実践している先駆的な農業者等を表彰するものです。

ムラサキ農産は、水稻をはじめ、夏秋ねぎ、トマトなどの園芸作物栽培を組み合わせた複合経営を行なっています。ねぎにおいては、最上広域野菜振興協議会のねぎ部会会長として、最上地域全体のねぎ産地化を牽引しています。



親子でオリジナル味噌づくり

わだい⑤

12月13日、町中央公民館で矢ノ目麴屋さん（河北町）を招き「味噌づくりワークショップ」が開催されました。これは、親子で楽しく学んでほしいと舟形町母親委員会が主催し、感染症対策をとり行われたものです。

当日は37組80名の親子が、大豆を潰すところから手作業で、オリジナル味噌づくりに汗を流しました。

参加者からは「子どもが味噌づくりを通して、食材や食べることに興味を持ったようで良かった」という声がありました。来年夏ごろの完成が楽しみです。



愛の鳩賞を受賞

わだい⑥

12月14日、山形メディアタワーで2020年度愛の鳩賞贈呈式が行われ、舟形町読み聞かせボランティア連絡協議会（会長 阿部弘明さん）が受賞しました。この賞は、ボランティア活動や地域福祉活動を地道に続け、成果を挙げられた方に対し贈られるものです。

阿部会長は、「今まで読み聞かせに携わっていただいたみなさんのおかげです。今後は、年配者にも読み聞かせの楽しさを伝え、若い世代の読み手の継承もしていきたい」と話していました。



大人にできることを考える

わだい①

11月18日、山形県立博物館館長の高橋剛文氏を講師に迎え、「“博物館からこれからを考える”～民族 文化 芸術 歴史 スポーツ～」をテーマに舟形大人塾公開講座が行われました。

この日は18名が参加。講演では、町歴史民俗資料館と全国にある博物館との比較や、町の総合発展計画を基にした働きかけを、子どもたちに地域や家庭で行なっていくことが大切という内容に、受講者は熱心に聞き入っていました。



家族団らんの時間を増やそう

わだい②

12月2日～8日のセーブメディア運動期間に合わせ、舟形小学校5年生の津藤倫仁さん（舟形第3）が、防災無線で同運動を呼び掛けました。この運動は、テレビやゲームの時間を減らし、家族団らんの時間を増やすことや、メディアとの賢い付き合い方を家族で考えることを目的としています。

津藤さんは、「最初は緊張したけれど、録音したものを聞いたらうまくいったので良かったです」と話してくれました。



“食”への関心を高めるため

わだい③

12月8日、舟形小学校の3年生33名が豆腐づくりを行いました。これは、食育・地産地消事業の一環として行われたもので、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識や選択する力を身につけ、健全な食生活を実践できる人を育てることを目的としています。

この日は、町食生活改善推進協議会の8名の指導の下、豆腐づくりを体験しました。また、夏には大豆を自分たちで植えたほか、味噌づくりも行い、食べ物が作られる過程を学びました。



12/5 ほほえみ保育園発表会
練習の成果を披露



▶園児たちは、一生懸命練習したダンスや歌を披露しました。

12/1 齊藤 渉前教育長（内山）
文部科学大臣表彰受影



▶長年、地方教育行政の充実発展に尽力されたことが称えられました。

11/30 石川 晋乃介さん（野）
山形県納税推進協議会
会長賞受賞



▶『中学生の「税についての作文」』において、見事受賞しました。

11/24 伊藤 美紀さん（内山）
山形県交通安全対策
協議会長表彰



▶交通安全のために尽力され、交通事故防止の功績が称えられました。

11/23 囲碁将棋オセロ大会
熱い対局を繰り広げる



▶子どもから大人まで73名が参加し、優勝を目指しました。

11/13 カーブミラーの寄贈
交通事故防止のため



▶全国共済農業協同組合連合会山形支部から、カーブミラー4基が寄贈されました。